

吉野復興大臣の福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年9月21日(木) 15:46～15:54 於) 飯舘村)

1. 発言要旨

本日は、福島県の富岡町、楡葉町、双葉町、南相馬市、浪江町、飯舘村を視察させていただきました。

富岡町では、今年の4月から入居を開始した災害公営住宅を視察し、帰還者の方々の生活状況などを確認いたしました。

楡葉町では、26年6月に復興まちづくり会社として設立をされました「ならはみらい」を視察し、町と連携して町民の方々の絆を深める取組についてお話を伺い、意見交換をしてまいりました。

双葉町では、今月15日に認定された双葉町の特定復興再生拠点区域を視察いたしました。町長から直接計画への意気込みを伺いました。今後、計画は実行段階に移りますが、結果を出すことが何よりも重要でございます。町、県、国の連携機関で構成する推進会議も活用しつつ、計画の実現に取り組んでまいります。

南相馬市では、再生資源化した汚染土壌等を用いた盛り土を視察しました。ここでの空間線量は安定しているなど、試験が順調に進んでいることを確認いたしました。また、南相馬市ボランティア活動センターを伺い、ボランティアの方々が草刈りをしている現場を拝見いたしました。お話を伺いますと、ボランティアをやる方々が非常に足りないと、そういうお話も伺いました。

浪江町では、大平山霊園に立ち寄り、津波被害の恐ろしさと犠牲者の方々に改めて思いをはせたところでございます。請戸漁港では、岸壁が整備され、26隻の船舶が戻ってきている現状を視察いたしました。これから、水産共同利用施設の整備が本格化してまいりますので、そこに期待をしております。

ここ飯舘村では、営農を再開した農家を訪問し、福島復興交付金を活用して設置した栽培施設にて、今が旬のアストロメリアやトルコギキョウなどの栽培を視察させていただきました。その後、先月12日にオープンをしました「いいたて村の道の駅までい館」を視察をしたところでございます。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今日、被災地を見てみて、吉野大臣自身が感じたことというか、前に進んでいるなという思いか、それともまだまだだなという思い、どちらが強いですか。

(答) 今日は本当に盛り沢山のところを見せていただきました。ここ飯舘村、すばらしい村長のアイデアで、すばらしい道の駅等々も

できております。そこに芸術作品がございます。こんな道の駅は初めてです。

でも、これができたからこれで終わったんだというわけではございません。そういう意味で、ステージステージでいろいろな課題が生じておりますので、そういう復興の進んだステージ、復興の進まないステージ等々、町によっていろいろございますので、ステージステージに課題があるんだなというところを、きちんと勉強してまいりました。

(問) 双葉町の復興拠点を御視察なさったということですが、地元の方では、今後拡充とか、そういった要望とかあると思うんですけれども、その対応の考え方はありますか。

(答) まずは認定された拠点区域、560ヘクタールですけれども、この整備をいかに進めるかということです。次の段階のところまでは、まだ今日はお話に出てきませんでした。まずは推進協議会等を使って、計画をいかに実現していくかということで、役場の屋上から双葉町全体を見せていただきましたけれども、約7割の方々の住まいが復興拠点のエリアに入っておりますので、計画をいかに進めていくかということでもあります。

(問) 政局の話で申し訳ないんですけれども、衆院解散という話が出ておりますが、現職大臣としての意気込みというのと、北朝鮮の脅威があると言われていた中で、政治的な空白が生まれるということについて、現閣僚としてのお考えを一つお願いいたします。

(答) 解散権は、総理の専権事項でございますので、これはもう、そこまであります。

北朝鮮のミサイルの問題も、これは政府があるわけですから、そういう意味で迅速な対応、これはできると、このように思います。まだ解散するかどうか、総理の専権事項ですので、わかりません。

(問) 今ちょっと解散の話もあったと思うんですけれども、もしそういった流れになったときに、どういったことをお伝えしていきたいとか、国民の皆さんに伝えていきたいなということはあると思いますか。

(答) 実は、私は明日も、静岡、名古屋の方に公務が入っております。復興大臣ですから、きちんと公務最優先で、一生懸命、復興大臣としての公務を務めていきたい、このように考えています。そして、もし万が一解散になれば、これは常在戦場でございますので、常にその準備はしているつもりでございます。

(以 上)